第七回ハイクアート賞発表！

俳句美術館・第七回「ハイクアート賞」に多数のご応募をいただき、有難うございました。

『俳句部門』では、八木健の制作したアート九点に俳句をつけてご応募いただきました。『ハイクアート部門』では、アートと俳句の両方をご自身で作っていただいた作品でご応募いただきました。

応募総数は、俳句部門が一四五点、ハイクアート部門が一一五点でした。審査の結果、以下の通り、大賞、選者特選、秀逸、入選の各賞を決定致しました。

俳句部門

大賞

ちちははの長き喧嘩よチューリップ

山口県　浅原佑斗

【講評】長すぎる両親の喧嘩を聞き流しながらチューリップを眺めている作者が見える。二物の取り合わせがユニークで巧み（松本）。要するに、子どもの目から見た夫婦喧嘩なのだが、「ちちはは」と平仮名表記されるほどに大人気ない喧嘩なのだろう。チューリップの花の茎のように両親の喧嘩も長い（小西）。

特選

池田澄子賞

蟷螂をねらってカメラ地を這ひぬ

東京都　山本　賜

【講評】触らないように気付かれないように、そして良い角度から撮ろうとしている姿が目に見える。感想を言っていないのがよい。

小西昭夫賞

氷上を無人の靴が滑りゆく

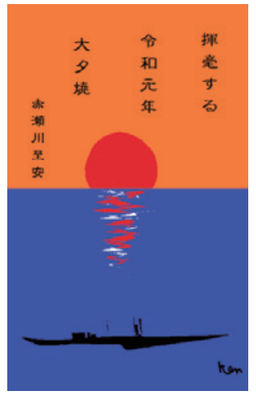
東京都　中野英里奈

【講評】ヒエーッ。ついに透明人間が出現したか！　一対のスケート靴が氷上を滑ってゆく。ちょっと不気味で、ちょっと可笑しい。

松本勇二賞

揮毫する令和元年大夕焼

東京都　赤瀬川至安



【講評】書に親しんでいる作者であろうか。新元号令和を迎え、気を引き締めている様子が伝わってくる。中七が動かない。

八木健賞

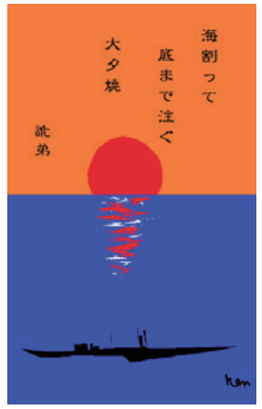
抱き締めし形のまま皮手袋

大阪府　久松久子

【講評】言われてみれば成程です。大笑いしたら確かにその後、深呼吸する。あゝ、そうだ！と思わせるのが俳句の面白さ（池田）。

海割って底まで注ぐ大夕焼

愛媛県　訛弟



【講評】印象を素直に描くことが俳句の出発点。印象優先で誇張ともとれる表現だが、具体的に描いて説得力もあり、可笑しい（八木）。

ふるさとの山装ふや君嫁ぐ

広島県　帆足あさ

【講評】嫁いでいくのは誰だろう。恋人か、娘か、あるいは孫か。ひょっとしたら、親戚や知り合いの娘かも知れない。それが子や孫や親戚の娘なら喜びの方が大きいだろうが、もし恋人なら、とても切ない（小西）。

【講評】俳句は「モノ」を描くことで、説明をしなくても読者と詩心を共感し合える。「抱き締め」に十分な物語がある。

秀逸

饒舌な君とワインと冬銀河

広島県　帆足あさ

【講評】三つの事柄を並列に並べた一句。よく喋るパートナーから冬銀河への展開が見事（松本）。君、ワイン、大銀河を並列に並べているから「切れ」がないように見えるが、星の美しい夜空に力点が置かれて不思議な魅力がある（八木）。

夏の山笑った後の深呼吸

兵庫県　井野ひろみ

薇に灰とレシピと届きをり

福島県　石塚柚彩

【講評】この薇は親しい人から送られてきた。それを説明せずして、そう思わせる「灰とレシピ」と詠んだことが素晴らしい（池田）。

シャッターが切り取る空の黒揚羽

埼玉県　稲葉純子

【講評】シャッターが切り取ったのは、黒揚羽だけ。花も庭も建物も映っていない。背景は空だけである。翔んでいる黒揚羽がクローズアップされているのだ。揚羽では駄目。黒羽でなければ（小西）。

入選

アート① 薇

薇や大切なもの握りしめ　日根野聖子
薇の独立戦争樹の蔭に　石井奈津希
山の美容室薇のカール巻き　稲葉純子

アート② チューリップ

人前できっと泣かないチューリップ　宮武由佳子
チューリップ風は乾杯強要す　青木かずこ
チューリップ人を信じて後悔なし　赤瀬川至安
初蝶の色とりどりの誕生日　山中楓加

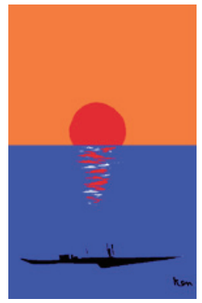
アート③ 夏の山

きつぱりと尖る連山夏に入る　稲葉純子
青嶺から青嶺に渡るロープウェー　久松久子
わが恋は仮定法過去夏の山　走吟
父の背を追ひかけ登る夏の山　帆足あさ

アート④ カメラ

八月のカメラがひとを歩かせる　井野ひろみ
父撮りしモノクロの春知るカメラ　村上ヤチ代
シャッターを切る手冷たし事故現場　金城正則

アート⑤ 夕焼け



該当なし

アート⑥ ワイン

ハイクアート部門

大賞

人混みに押されて距離が近くなる

愛媛県　尾﨑祥子（切り紙）

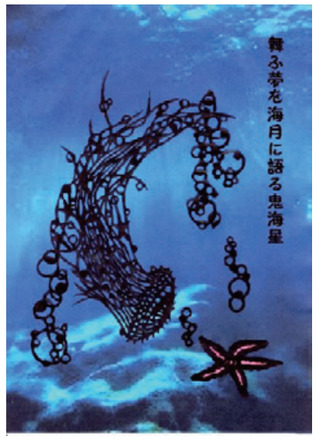
【講評】
黒地に大輪の花火を一輪だけ咲かせた単純化が見事だ。添えられた俳句は無季だが、切り絵花火と響き合って、花火の人混みであることは明らか。若い二人にはこの人混みが嬉しい。二人の距離が近くなるのだ。切り絵と俳句の見事なコラボである（小西）。単純な切り絵ですが、花火の揚がっていく線が、「距離が」と「近くなる」を印象強くしているようで面白く説得力があります。句も無理なくわざとらしくなくてよいです（池田）。俳句には季語がないが、アートで花火と分かる。パワーのあるデザインがいい。句に物語があって楽しい（八木）。

特選

池田澄子賞

舞ふ夢を海月（くらげ）に語る鬼海星（おにひとで）

東京都　青木かずこ（切り絵）



【講評】
やや既にありそうな俳句ではありますが、アートと合わせると、そのメルヘンチックな部分をアートが支えていて、楽しく思われてきます。
細かな切り絵と色調が素敵。

小西昭夫賞

探査機は要らぬ兎が餅搗けば

神奈川県　八十日目（写真）

【講評】
まるで、日本の国旗の白地を黒に、日の丸の赤を満月に変えただけのような単純化にインパクトがある。月では兎が餅を搗いているなどとは、もう子どもでも信じていない。では兎が餅を搗かない以上、探査機は必要ということだろうか。おかしい。

スケート靴

スケート場渦となりたる吾子探す　青木かずこ
スケートのジャンプ見る腰浮かしつつ　稲葉純子

アート⑦ 秋の山

秋の山眠りの前に装ひて　井野ひろみ
秋宵や遠き任地の誕生日　村上ヤチ代
葡萄の字何度書いても辞書を引き　金城正則

アート⑧ スケート靴

スケート場渦となりたる吾子探す　青木かずこ
スケートのジャンプ見る腰浮かしつつ　稲葉純子

アート⑨ 皮手袋

指を屈伸一年ぶりの手袋の　稲葉純子

松本勇二賞

春愁や昔の爺はよく叱り

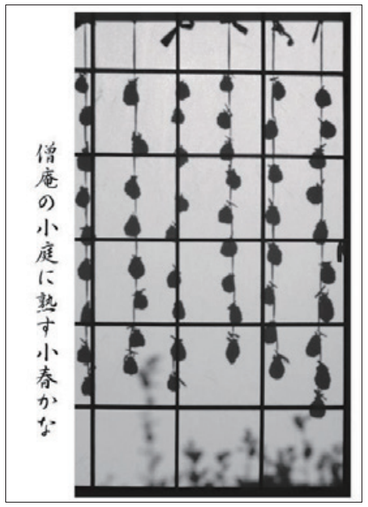
愛媛県　伊賀上賢治（写真）

【講評】
まさに春愁が迫ってくる見事なアートである。昭和世代には、爺さん、婆さんに叱られた記憶が懐かしく蘇ってくる一句。

八木健賞

僧庵の小庭に熟す小春かな

神奈川県　貞住みえこ（写真）



【講評】
熟すのは干し柿だろう。あえて柿と書かないで、読者に謎かけをしたのである。アートがデザイン風でお洒落。

秀逸

狛犬の動き制する雨蛙

神奈川県　八十日目（写真）

【講評】蛙が眼球にとまり、動きを制するとして面白い。もともと動かない狛犬だからなおのこと面白い。狛犬が「あ」の方であることも上手い（松本）。大きな狛犬の迫力と小さな雨蛙の取り合わせがいい。しかも狛犬の勝手な動きを赦さない雨蛙のパワーを描いて滑稽味もある（八木）。

折り紙の花でいっぱい梅雨の部屋

愛媛県　石丸綾子（切り絵）

思い出が時間を戻す春景色

愛媛県　新谷萌乃（切り紙）

【講評】梅雨で外に遊びに行けない日。色とりどりの折り紙の花々の配置も楽しく、てるてる坊主も楽しそう（池田）。色がきれいで大胆な構図も魅力的である。てるてる坊主を吊るして折り紙をする子どもが愛しい（小西）。

巡り合う星の縁まで城下の灯

愛媛県　伊賀上賢治（写真）

【講評】甘ったるい句が、アートの色合いとぴったりで、説得力を増している（池田）。

よちよちとあんよで追いかけシャボン玉

愛媛県　高須賀聖子（切り絵）

四六時中娘の心配母の日も

愛媛県　増田遥子（切り絵）

万象の煌々と老ゆ小春かな

東京都　難波美枝子（写真）

拓いてく軌跡かさねる俺の地図

兵庫県　桑谷百香（写真）

暗闇にホタルの光ふくらんだ

愛媛県　中村伊吹（切り絵）

入選

雲の下飲むにはしょっぱいソーダ水

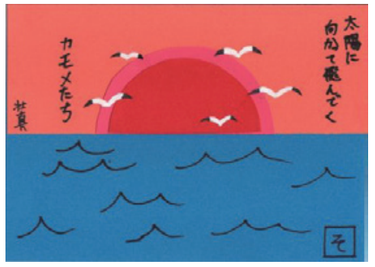
愛媛県　尾﨑朱莉（切り絵）

嘘の数思ひ出の数数えけり。

愛媛県　一柳侑里（切り絵）

太陽に向かって飛んでくカモメたち

愛媛県　水野壮真（切り絵）



赤い傘梅雨に備えてスタンバイ

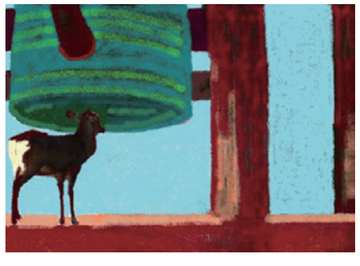
愛媛県　横川歩美（切り絵）

平和だなあ日本はいいな春動く

東京都　難波美枝子（写真）

悩ましき世へ踏み入るる神の鹿

奈良県　堀ノ内和夫（ペイント）

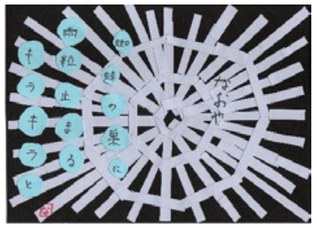


梅雨の日に包む風呂敷藍こぼれ

奈良県　大谷冴香（グラフィック）

蜘蛛の巣に雨粒止まるキラキラと

愛媛県　沖田直也（切り絵）



夏の朝千切れ散らばるシャンデリア

群馬県　石川実莉（写真）

なつかしい金魚すくいに胸おどる

愛媛県　舛田里咲（切り絵）

審査員紹介

池田澄子

「豈」同人・「船団」同人。句集『たましいの話』『拝復』『思ってます』、著書『休むに似たり』『あさがや草紙』他。

小西昭夫

子規新報編集長、愛媛新聞俳壇選者。著書『花綵列島』『ペリカンと駱駝』『小西昭夫句集』他。

松本勇二

愛媛県俳句協会会長、「虎杖」代表。

八木　健

俳句美術館館長、滑稽俳句協会会長、「八木健の俳句遊遊」番組主宰。句集『ゆず』『逃水』『滑稽俳句集』、著書『俳句・人生でいちばんいい句が詠める本』他。

【審査について】

今回、審査をお願いしておりました、冨士眞奈美先生は、怪我の治療のため審査をすることができませんでした。

第8回ハイクアート賞募集要項

1. 俳句部門…八木健のアートに俳句をつけてください。
2. ハイクアート部門…ご自身のアートに俳句をつけてお送り下さい。

募集期間：令和２年４月１日～令和２年７月31日

審 査 員：小西昭夫　冨士眞奈美　松本勇二　山田貴世　八木健

結果発表：令和２年10月下旬予定。

主　　催：俳句美術館　（問合せ 090-8287-1390）

＊作品はオリジナルのもので未発表に限る。

＊募集内容の詳細は、俳句美術館ホームページに、令和２年３月頃掲載予定。「俳句美術館」で検索可。